

# 令和7年度 市民と議会の意見交換会

令和7年10月18日、19日、龍ヶ崎コミュニティセンターと長山コミュニティセンターにおいて、「令和7年度市民と議会の意見交換会」を開催しました。

当日は、議会側から「子育て支援と人口減少問題」について報告を行い、その後の意見交換では参加者の皆様から多くの貴重なご意見をいただきました。

頂戴したご意見は今後の議会活動に生かすとともに、今後も市民の皆様の声を直接伺える場づくりに努めてまいります。



## 龍ヶ崎コミュニティセンター

育休中は「働いていない」という扱いになり、上の子が保育園を退園しなければならなくなったため、職場復帰をした。制度を改善してほしい。

仕事場がなくて龍ヶ崎を出て行ってしまいう人も思うので、市内に働ける場所を作ってほしい。また、つくばの里工業団地の立派な企業に市外に行かれないようにしてほしい。

お金がないと子育てはできない。龍ヶ崎市は支援が少なく、助けという姿勢は市にないと思うくらい。また、子育てをテーマにするのであれば、子育て世代が多く集えるような場所で開催しないと意味がないのではないかな。

給食費無償化の話が出ているが、内容も充実してほしい。量も足りているのか心配。

外国人が増えているが、ゴミの出し方などの問題に自治会が対応している。具体的な対策を検討してほしい。

ゴミ拾いをしているが、草刈りをした後、ゴミだけが残っているので、刈り草とゴミをセットで回収してほしい。

少子化、人口減少は、お金がないことが一番の問題。次世代を担う子どもたちにお金を使ってほしい。

児童館はない、さんさん館は3歳で打ち切られてしまう。どこでどうやって過ごせばいいのかという子育て家庭が多い中で、スピーディーさをもって政策を進めてほしい。



# 長山コミュニティセンター

行政は無駄な支出を減らし、子どもや子育て世代への支援をもっと充実させるべき。地域のつながりが薄れた今こそ、子育てを社会全体で支える仕組みが必要。

人口減少を嘆くよりも子育てができるまちづくりを考えることが大切。重要なのは、地域が安全で子育てしやすい環境であること。人口減少を前提にした持続可能なまちづくりを目指すべき。

学校開放は子どもの居場所づくりや保護者の安心につながる。一部の学校では下校後に校庭を開放して子どもが遊べる取組があるが、できる学校とできない学校があるのはおかしい。

子育て支援で最も大切なのはお金ではなく、人のつながりと地域・学校の関わり。先生や地域が子どもや家庭にもっと寄り添うことが必要。



龍ケ崎は住宅価格が手ごろである点を魅力として発信できる。

民生委員が把握する結婚希望者をマリッジサポーターに紹介できる制度を議会で取り上げてほしい。

都心近くで自然豊かな子育て環境など、市の良さを広める「ブランド戦略」が必要。

保育ルームと放課後デイサービスの併用利用を、より柔軟に利用できるようにしてほしい。

働く女性が子育てしやすい環境には、行政部局間の連携と学校の地域活用が重要。学校の空き教室を地域の子育て拠点として活用するなど、地域全体で子育てを支える体制を進めてほしい。



◀開催結果の詳細は、こちらからご覧ください

## 表紙写真によせて



今号の表紙は、表紙写真の募集にご応募いただいた作品の中から選ばれた一枚です。

市内の身近な風景を切り取ったこの写真は、日常の中にある龍ケ崎の魅力を感じさせてくれます。

ご応募、ありがとうございました。

### ◎撮影者(吉澤さん)からのコメント

平台からの夕景は富士山と竜ヶ崎線と一緒に撮れるお気に入りの場所です。日の入りと一緒に撮るために時刻表と日の入り時刻を調べ、富士山が見えるタイミングを狙いました。

